

# 第6学年 国語科学習指導案

## 1. 単元

筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう

「平和のとりでを築く」「自分の考えを発信しよう」 関連教材「平和への誓い」

## 2. 指導の考え方

### ○ 子どもの実態

本学年の子どもたちは、これまでに、「カレーライス」「やまなし」という2つの物語文と「生き物はつながりの中に」という説明文、「森へ」という紀行文を学習している。「カレーライス」では、主人公ひろしのお父さんに対する気持ちの変化を、ひろしの言動や様子の書かれた叙述に即して読み取る学習をした。「やまなし」では、文章構成の意図を考えたり、宮沢賢治の一生を描いた「イーハトーブの夢」とつないだりしながら、作者が伝えたいことを読み取る学習をした。説明文「生き物はつながりの中に」では、ロボットのイヌと本物のイヌを比べながら生き物の特徴をとらえ、生き物は時間的空間的なつながりの中で生きており、生き物として生きることは素敵なことであるという要旨をとらえる学習をした。「森へ」では、時間の経過を表す言葉や比喩表現に着目しながら、まとめの段落に書かれている「森はゆっくりと動いているのです。」を中心に、筆者の森に対する見方の変化を読み取る学習をした。

これらの学習を通して、子どもたちは、文脈の中で叙述をたどり結んだり、文章構成の意図を考えたりしながら、主題や要旨をとらえることができるようになってきている。しかし、中心となる叙述を自分の力で見つけることができない子どもや部分的な読みで終わってしまう子どももあり、まだ十分とはいえない。

「関連づけて読む」活動については、「森へ」（教科書には前半が掲載されている）と関連教材「森へ（後半）」を比べて読むことで、森の生き物は命をつないで生きているという共通点や、植物や動物だけでなく、大昔は人もそのつながりの中にあつたという前半との相違点を読み取り、命のつながりについての見方・考え方を深めることができるようになってきている。

### ○ 教材の価値・特質

教科書教材は、原爆ドームを題材に書かれており、「原爆ドームは、後世まで、それを見る世界中の人々の心に、核兵器の使用さらには戦争を許さず平和を守っていく強い意志を築くための世界の遺産なのだ。」という考えを伝えている説明文である。

文章構成の特質としては、全体で13の形式段落からなっており、大きく3つのまとまりから構成されている。①で、筆者自身が、語り手「わたし」として登場し、原爆ドームに対する思いを語り出すところから始まっており、②～⑩は、編年体で、原爆ドームがたどった歴史と世界遺産への道のりが説明され、その最後の段落で再び「わたし」が登場してその思いを結んでいる。それを受け、⑪・⑬で筆者が伝えたいことをまとめる、という構成になっている。

文章表現の特質としては、次の2点が挙げられる。一つは、ユネスコ憲章の前文の一文を引用し、題名にもなっている「平和のとりでを築く」というキーワードを使い、平和を守る強い意志や、互いの心の結束を訴えていることである。もう一つは、原爆ドームについての書き表し方を、「建物」「建造物」から「世界遺産」「記念碑」へ、最終的には「世界の遺産」へと変化させながら、その価値を確信し、強調して伝えていることである。

関連教材は、8月6日に広島で行われた平和記念式典の中の「平和への誓い」を用いる。「平和への誓い」の「ヒロシマで起きた事実学び、知り、考え、そして、そのことをたくさんの人に伝えていくことから始めます。」という言葉は、子どもたちにとって興味深いものと考えられる。また、教科書教材と重ねて読むことで、「多くの人々が二度と戦争を起こしてはならないという強い思いをもっている」という共通点だけでなく、「自分もその一人である」ということに気付き、平和を守ることにに対する見方・考え方を深めることができると考える。

### ○ 指導にあたって

学習に入る前の段階として、単元の学習内容を事前に知らせ、修学旅行での学習を想起させ戦争や平和に関するニュース番組を視聴したり読んだりさせたものをもとに、戦争や平和についての自分の見方・考え方を書きまとめさせておく。

そして、その取り組みと単元名をつないで「筆者の考えを受けとめ、戦争や平和に対しての考えを深め、発信しよう。」という学習の構えをもたせた上で、本教材が、説明文の読み—材料収集—自分の考えの発信という構成になっていることをとらえさせ、学習の見通しをもたせる。

## 読みのめあて

冒頭の①段落で、筆者が「わたし」という語り手として原爆ドームに対する思いを語り出していることに着目し、単元名、題名とつないで「①原爆ドームがユネスコの世界遺産への仲間入りを果たすまでに、どのような年月をたどってきたのだろう。」「②『平和のとりでを築く』で、筆者は何を伝えたいのだろう。」という読みのめあてを生み出す。

## 予見

まず、文章構成を確認した上で、②～⑩段落から読みのめあて①に対する予見をまとめる。ここでは、時を表す言葉や事実を表す文末表現、キーワードを手がかりに、制限字数の中で書きまとめ、原爆ドームがたどってきた年月を確かめていく。次に、⑫⑬段落を手がかりに、読みのめあて②に対する予見をまとめる。そして、それぞれの予見を交流する中で、筆者の伝えたいことは⑬段落に重点を置けば読み取れることを確認し、学級の予見を方向付ける。

## 学習計画

重点を置いた⑬段落の最後の一文について、「それを見る人」「平和のとりでを築く」「世界の遺産なのだ」という筆者の書き表し方に問題意識をもたせ、読み確かめる計画を立てる。

## 読み深め・確かめ

⑬段落の最後の一文を中心に、次の3点を解釈して筆者の伝えたいことを読み確かめる。

- ・「それを見る人」とは、だれのことなのか。
- ・「平和のとりでを築く」とはどういうことなのか。
- ・「世界の遺産」という言い方をしているのはなぜなのか。

## 読み・読み方のまとめ

読みのまとめでは、題名にもどって筆者の伝えたいことをまとめ、筆者の伝えたいことに対して自分はどうか考えるか書きまとめさせる。また、広島の子が戦争や平和について発信したものを伝え、「平和への誓い」につなぐ。

読み方のまとめでは、引用文中の言葉を自分の知識とつないで分かりやすく言い換えたり、詳しく説明したりする読み方、対象についての書き表し方の変化から、筆者の論理をたどる読み方などについて振り返り、まとめる。

## 「関連づけて読む」活動

広島の子の「平和への誓い」にある子どもたちの「ヒロシマに学び、知り、考え、そして、そのことをたくさんの人に伝えていく。」という言葉から、本文と共通している「平和について今、自分にできること」を考えさせ、まとめる。

## 自分の考えを発信する

「平和のとりでを築く」の学習と関連づけて読んだ「平和への誓い」の学習を通して自分なりに考えたことや社会科の学習、平和学習で学んだことをつなぎ、戦争や平和に対してもっと知りたくなったことや、感じたことを書きまとめさせ、発信する。

## 3. 単元の目標

- 最終段落の叙述「戦争は人の心の中で生まれるものである」を具体的に自分の言葉で置き換えて読むことで、「平和のとりでを築く」で筆者が伝えたいことを読み取ることができる。
- ユネスコ憲章の引用の言葉を自分の知識とつないで分かりやすく言い換えたり、原爆ドームについての書き表し方の変化を文脈全体からたどり結んで読んだりしながら、筆者の論理をたどり、伝えたいことを考える読み方を身に付けることができる。
- 筆者が伝えたいことについて、「平和への誓い」と関連づけて読むことによって、戦争や平和に対する見方・考え方を深めることができる。

## 4. 学習計画（全18時間）

過程	時	主な学習活動と内容	指導上の留意点 (◎基礎・基本の重点、※「関連づけて読む」活動に関して)
読みのめあて	1	1 単元名やリード文、題名から学習の構えをもつ。	※ 事前に戦争や平和に関するニュース番組を視聴したり新聞を読んだりさせておく。それらを引き出したり、長崎への修学旅行での学習内容を想起させたりしながら、単元の学習の構えをもたせる。

読 み の め あ て	〈単元の構え〉	
	<p>筆者の考えを受けとめ、戦争や平和に対する考えを深め、発信しよう。</p>	
予 見	2	<p>単元構成から学習の見通しをもつ。</p> <p>○ 戦争や平和に対する自分の見方・考え方を書きまとめさせておく。 ○ 教科書を使い、本単元が説明文の読み—情報収集—自分の考えの発信という構成になっていることをとらえさせる。</p>
	2	<p>1 単元名やリード文から、読む目的をもつ。</p> <p>2 題名を読む。</p> <p>3 冒頭（形式段落①）を読む。</p> <p>4 単元名、リード文、題名、冒頭の読みをつないで、読みのめあてをつくる。</p> <p>○ 前時にもった単元の構えとつなぎながら、戦争や平和に対する自分の見方・考え方を深めるために読むという目的をもたせる。 ○ 単元名やリード文とつなぎ、「筆者の伝えたいことがありそうかな？」と問いかけながら、題名を読む。 ○ 「とりで」は戦争の時に築かれる要塞の意味であり、その言葉を使い、あえて「平和のとりで」としていることに問題意識をもたせる。 ○ 冒頭には「平和のとりでを築く」という題名につながる説明はなく、この説明文が原爆ドームと呼ばれる建造物を題材に述べられていることをとらえさせる。 ○ 冒頭の①段落で、筆者が「わたし」という語り手として登場し、「わたしは、～この傷だらけの建物がたどってきた年月を思わずにはいられなかった。」と語っていることに着目させ、単元名、リード文とつないで読みのめあてを生み出させる。</p>
<p>〔読みのめあて〕</p> <p>① 原爆ドームは、世界遺産への仲間入りを果たすまでに、どのような年月をたどってきたのだろう。 ② 「平和のとりでを築く」で、筆者は何を伝えたいのだろう。</p>		
予 見 ①	3	<p>1 全文を読み、意味段落に分けて文章構成をとらえる。</p> <p>①段落 筆者の語り出し ②～⑪段落 原爆ドームがたどった年月 ⑫⑬段落 まとめ</p> <p>○ 形式段落を意味段落に分け、意味段落のつながりを考えさせる。</p>
	4	<p>2 読みのめあて①に対して「原爆ドームがたどった歴史—世界遺産への道のり」を段落ごとに整理する。</p> <p>○ 原爆ドームが世界遺産への仲間入りを果たすまでにたどった年月について、段落ごとに、字数制限の中で要約させる。 ○ 必ず落としてはいけないキーワードを見つけるよう助言する。 ○ 代表の子どもの要約をもとに検討し、文章構成や文末表現、時を表す言葉や「保存」「世界遺産」というキーワードをもとに、事実を正確にとらえさせる。</p>
<p>〔予見①の方向〕</p> <p>② 1915年物産陳列館として完成した。 ③ 作品展の会場として使われた。 ④ 1945年原子爆弾が投下され、この建物にほど近い上空で爆発した。 ⑤ 全焼したものの、レンガと鉄骨の一部は残り、丸屋根の支柱の鉄骨がドームの形となって建物の最大の特徴をとどめた。 ⑥ 戦後間もないころ、原爆ドームを保存するか取りこわすか議論が続いた。</p>		

予見	<p>⑦ 1960年一少女の日記がきっかけで、市民も役所も「原爆ドーム永久保存」に立ち上がった。</p> <p>⑧ 全国から保存を願う手紙や寄付が次々と集まり、補強工事が繰り返された。</p> <p>⑨ 1992年原爆ドームを世界遺産にしようという動きが高まり市民中心の活動が全国へと広がった。</p> <p>⑩ 世界遺産とは文化遺産と自然遺産を未来に向けて大切に守っていく制度である。</p> <p>⑪ 1996年世界遺産の候補として審査を受け、決定の知らせが届いた。</p>	
予見②	<p>6 1 読みのめあて②に対する自分の読みを書きまとめる。</p> <p>7 2 書きまとめたものをもとに話し合い予見を方向付ける。</p>	<p>○ 形式段落⑫と⑬の中の叙述を抜き出してまとめるように助言する。</p> <p>○ 形式段落⑫を中心にまとめた子どもと⑬を中心にまとめた子どもの予見に分類し、⑫段落と⑬段落のどちらに重点を置いた方がよいのか判断させる。</p> <p>○ ⑬段落には、「平和のとりでを築く」というキーワードが入っていること、「記念碑」から「世界の遺産」へと書き表し方が変わっていること、文末で強く言い切っていることなどから、⑬段落に重点を置けばいいことを確認する。</p>
学習計画	<p>8 1 ⑬段落を中心に、筆者の伝えたいことを明らかにする計画を立てる。</p>	<p>○ 重点を置いた⑬段落の最後の一文に着目させ、筆者の書き表し方に課題意識をもたせる。</p>
読み深め【組本時】 確認	<p>9 1 筆者の伝えたいことを読み確かめるためのポイントについて確認する。</p> <p>10 2 読み確かめるポイントにそって自分の考えを書きまとめる。</p> <hr/> <p>11 1 前時に書きまとめたものをもとに話し合う。</p> <p>○ 「それを見る人」の中には自分や、未来の人も含まれていることを読み取ること</p> <p>○ 制度としての「世界遺産」というだけでなく、多くの人の平和を願う思いが込められている貴重な遺産であることを読み取ること</p> <p>○ 「平和のとりでを築く」とは、心の中の怒りや欲などを押さえ込み、戦争は絶対に許さないという強い気持ちをもつということを読み取ること</p> <p>2 話し合いで明らかになったことを書</p>	<p>○ まとめの段落の一つ一つの叙述を読み取らせ、読み確かめるポイントを確認する。</p> <p>○ それぞれのポイントについて、根拠を明らかにしながら書きまとめさせる。</p> <p>○ 一人一人の読みの違いを生かして、それぞれの読み取りとその解釈を聞き合う中で、筆者の伝えたいことをより確かに受けとめさせる。</p> <p>◎ 「世界の遺産」の「の」に着目させることで、制度としての「世界遺産」だけではなく、「世界の人々にとって大切な」という意味をとらえさせる。</p> <p>◎ 「なのだ」という文末に着目させることで、筆者の強い思いを感じ取らせる。</p> <p>○ 引用文の言葉を自分の知識や経験とつないで解釈し、分かりやすく説明するように助言する。</p> <p>○ 友達の読みや考え、感想とつないで、自分の</p>

[予見②の方向]

筆者は、原爆ドームは、後世まで、それを見る世界中の人々の心に、核兵器の使用、さらには戦争を許さず平和を守っていく強い意志を築くための世界の遺産なのだ、ということ伝えてる。

[読み深め・確かめるポイント]

- ① 「それを見る人」とはだれのことなのか。
- ② 「世界の遺産」という言い方をしているのはなぜなのか。
- ③ 「平和のとりでを築く」とはどういうことなのか。

		<p>きまとめる。</p> <p>読みや考え、感想の深まりを書かせる。</p> <p>◎ 板書に「読み方の種」のカードを位置付け、本時で使った読み方を視覚的にとらえさせる。</p>
		<p>筆者は、原爆ドームとは、今生きている人だけでなく、未来の人も含めて、それを見る世界中の人が「二度と戦争を繰り返してはいけない」という強い気持ちをもつことができるための自分を含めた世界の人々にとって大切なものなのだ、ということ伝えたかった。</p>
読み・読み方のまとめ	12	<p>1 これまでに学習した読み方を振り返り、まとめる。</p> <p>○ 書き表し方の変化を文脈全体からたどり結んで読む読み方が分かること</p> <p>2 これまでの学習を振り返り、筆者の伝えたいことについてまとめる。</p> <p>3 筆者の伝えたいことに対して、自分はどうか考えるのかを書きまとめる。</p> <p>◎ 学習した読み方を振り返り、「読み方の種」に位置付けながらまとめていくことで、これからの学習に活用することができるようにする。</p> <p>○ 「平和の～」の「の」の意味を、読み確かめたことをもとに言葉を補いながら、筆者の伝えたいことをまとめるようにする。</p> <p>※ 広島6年生が戦争や平和について発信したものがあつたことを伝え、「平和への誓い」につなぐ。</p>
関連づけて読む	13 14 15	<p>1 「平和への誓い」を「平和のとりでを築く」と比べながら読み、共通点をまとめる。</p> <p>2 「平和への誓い」と「平和のとりでを築く」の共通点をもとに、戦争や平和についての自分の考えをまとめる。</p> <p>○ 4つの観点をもって読んで共通点を話し合い、平和のために何ができるか自分の考えを深めること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ユネスコ憲章との共通点</li> <li>・ 筆者の要旨との共通点</li> <li>・ 広島6年生はどうか考えているか</li> <li>・ 自分にできること</li> </ul> <p>○ 4つの観点をもとに「平和への誓い」を「平和のとりでを築く」と比べながら読み、共通点を見付けるようにする。</p> <p>※ どの叙述が、どこで、どのように共通しているかを、根拠を挙げながら発表するように助言する。</p> <p>※ 同じ言葉や似ている言葉・文に着目させ、自分も平和を守るための一員であることに気付かせる。</p> <p>※ 事実を知ることの大切さに気付かせ、平和について考え、後世に伝えるために自分が何をしなければいけないのかを考え、書きまとめさせる。</p>
		<p>自分たちには、戦争は関係ないと思っていたけれど、広島の子供たちの話からこのままでは平和は保てないことがわかり、自分にできること「学ぶこと・知ること・伝えること」から始めていこうと思いました。</p>
自分の考えを発信する	16 17 18	<p>1 現在の自分が考えていることを「仮の要旨」としてまとめる。</p> <p>2 「仮の要旨」が説得力をもつように必要な材料を集める。</p> <p>3 資料の内容を加えて、自分の考えをまとめ直す。</p> <p>○ できるだけ一文を短く、主張が明確になるように助言する。</p> <p>○ 事前に活用できそうな図書資料やインターネットのホームページを把握しておき、子どもに紹介する。</p> <p>○ 「平和のとりでを築く」の文章構成も参考にしながら、「主張」「根拠となる資料」「まとめ」など、構成を明確にするよう助言する。</p>

## 第6学年〇組 (公開授業〇)

5. 本時 (15 / 18) 関連づけて読む

### 6. 本時の目標

- 「平和への誓い」を「平和のとりでを築く」と関連づけて読み、戦争や平和に対して自分がどう考えるかを書きまとめ話し合うことで、戦争や平和に対しての見方・考え方を深めることができる。
- 「平和のとりでを築く」で学んだ読み方を活用し、平和への誓いを要約して読むことができる。

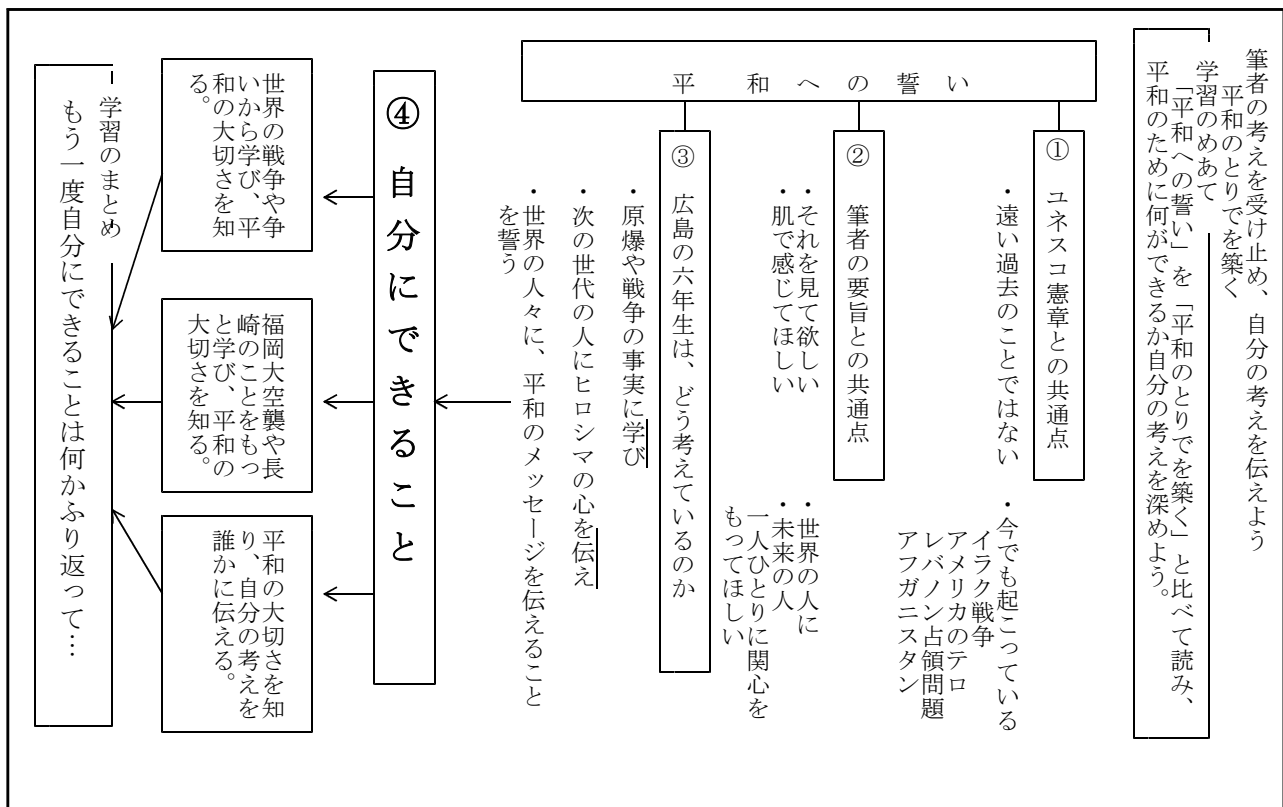
### 7. 本時指導の考え方

前時までに、子どもたちは、世界遺産への仲間入りを果たすまでの原爆ドームがたどった年月を読み取り、最終段落の「原爆ドームは、それを見る人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ。」という叙述をユネスコ憲章の前文の引用や自分の知識、経験とつないで読んでいる。また、原爆ドームについての記述の変化を文脈全体からたどって読み、筆者の伝えたいことを読み取る学習をしている。そして、「平和への誓い」を4つの観点で「平和のとりでを築く」と比べて読み、共通点を見つけ、書きまとめている。

本時は「平和への誓い」を「平和のとりでを築く」と比べて読み、筆者の伝えたいことを具体的に読み取り、戦争や平和に対しての見方・考え方を深める学習である。

そのために、まず、めあてを確認し、「平和への誓い」を「平和のとりでを築く」と比べて読み、平和のために何ができるか、自分の考えを深めることを確認する。次に、平和に対しての自分の考えを深めるために、「平和への誓い」を「平和のとりでを築く」と比べながら共通点を出し合い話し合う。ここでは、3つの観点をもって比べる。1つ目は、ユネスコ憲章との共通点「戦争は、心の中に生まれる～」とつないで考えさせたい。2つ目は、筆者の要旨との共通点「心の中に平和のとりでを築く」ということ、3つ目は、広島6年生はどうしようと考えているのかを出し合うことである。そして、広島6年生と比べて自分は、同じ6年生として何ができるのか、今までの学習や、新聞・ニュースから学んだことをもとに、自分がどうしたいかという考えを出し合う。最後に、はじめに思っていたことと比べて、自分にできること、自分がメッセージとして伝えたいことを書きまとめるようにする。

### 8. 板書計画



## 9. 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点 (※「関連づけて読む」活動に関して)
<p>1 めあての確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時学習の見通しをもつこと</li> </ul> <p>〈学習のめあて〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時学習で何をどのように話し合っていくのか、何を深めていくのかを確かめ、学習の見通しをもつことができるようにする。</li> </ul>
<p>「平和への誓い」を「平和のとりでを築く」と比べて読み、平和のために何ができるか、自分の考えを深めよう。</p>	
<p>2 「平和への誓い」を「平和のとりでを築く」と比べながら、共通点について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3つの観点をもとに自分の考えを伝え合い「平和への誓い」を「平和のとりでを築く」の共通点を読み取ること             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ユネスコ憲章との共通点</li> <li>・ 筆者の要旨との共通点</li> <li>・ 広島6年生はどうしようと考えているのか</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ それぞれの読みを把握し、読みの違いを生かしながら話し合いを展開する。</li> <li>○ ユネスコ憲章の「戦争は、人の心の中で生まれるもの～」とつないで読んでいる子どもから発表させ、人の心に注目させる。</li> <li>※ どの叙述がどこで、どのように共通しているのかを、根拠を上げながら発表するように助言し、それぞれの読みが伝わるようにする。</li> </ul>
<p>・ 「戦争は人の心の中に生まれる。」というところと「人の命を奪う戦争や暴力は、過去のことでありません。」は似ています。それは、今も領土を取り合い、宗教の違いで争いによって人の命が奪われているということです。戦争は今でもたくさんの国で起こっています。たとえばイラクなど戦争が続いていますね。人の心の中の利益や欲望があるから戦争につながっているの、戦争は人の心の中で生まれていることだと思います。</p> <p>・ 「心の中に平和のとりでを築く」と「世界の人々に～深い祈りの中にある広島にきてほしい。戦争のことを知り、平和の大切さを肌で感じてほしい。」というのは、世界の人々に広島で原爆にあった人の生の声を聞き、平和を願う人たちを見て、自分の体で平和の大切さを感じてほしいということで、長崎も同じように原爆にあっているの、ぼくたちがもっと関心を持ち、世界の人たちに平和を守る強い意志をもってほしいと言っていると思います。</p> <p>・ 広島6年生は、「事実を学び、ヒロシマの心を伝え、世界の人々に平和のメッセージを伝えることを誓う。」と言っていると思います。</p>	
<p>3 平和のために何ができるのか、自分の考えを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分に何ができるのか考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ 世界で唯一の被爆国として、自分たちにできることを考えさせる。</li> <li>※ 平和について自分が考えたことを自分の言葉で発表させる。</li> </ul>
<p>・ 今も続いている世界の戦争や争いなどについて学び、知ることで、何気ない当たり前の時間の大切さを知り、平和の大切さを考えていきたいと思っています。</p> <p>・ 自分たちの住む福岡でも福岡大空襲があり、毎年学習しているけど自分のこととして真剣に考えてなかったの、もっと進んで学び、平和の大切さを知りたいです。</p> <p>・ 修学旅行で長崎に行っても、平和学習をしても自分のこととしてとらえていませんでした。世界で唯一の被爆国としてもっと戦争のことを知り、次の世代につないでいかないと、また戦争が起こってしまいます。長崎のことや広島のことを学び、平和の大切さを知り、自分の考えを誰かに伝えたいです。</p>	
<p>4 学習を終えての感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今までの学習や本時での話し合いで深められた自分の考えをもとに、メッセージとして伝えたいことを書くこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 最初に書いた戦争や平和についての自分の考えを振り返り、自分の考えの深まりを実感させる。</li> </ul>
<p>・ 原爆にあった広島や長崎の人だけが戦争や平和について考えるのではなく、私が考えることが大切ということ学んだ。そして、身近なところから平和について考えを伝えたり、世界へ伝えていけるようにしたい。</p> <p>・ 平和とは、日頃から当たり前のことが当たり前でできることだと思うので、63年も前にあった戦争が今も人々を苦しめていることを世界の人が知ることで戦争が無くなると思うので、世界で唯一の被爆国である日本の子どものひとりとして、戦争に学び伝えたいと思う。</p>	

# 第6学年〇組 (公開授業〇)

5. 本時 (11 / 18) 基礎・基本

## 6. 本時の目標

- 「それを見る人」「平和のとりでを築く」「世界の遺産」という言葉の意味を叙述とつないで考えることを通して、原爆ドームは、それを見るすべての人々が「二度と戦争を繰り返さない」という強い気持ちをもつための価値あるものであるということを読み取ることができる。
- 筆者が一番言いたいことは何かを読み取るために、「平和のとりでを築く」の意味について自分の知識や経験から解釈したり、原爆ドームについての書き表し方の変化をたどって読んだりする読み方を身に付けることができる。

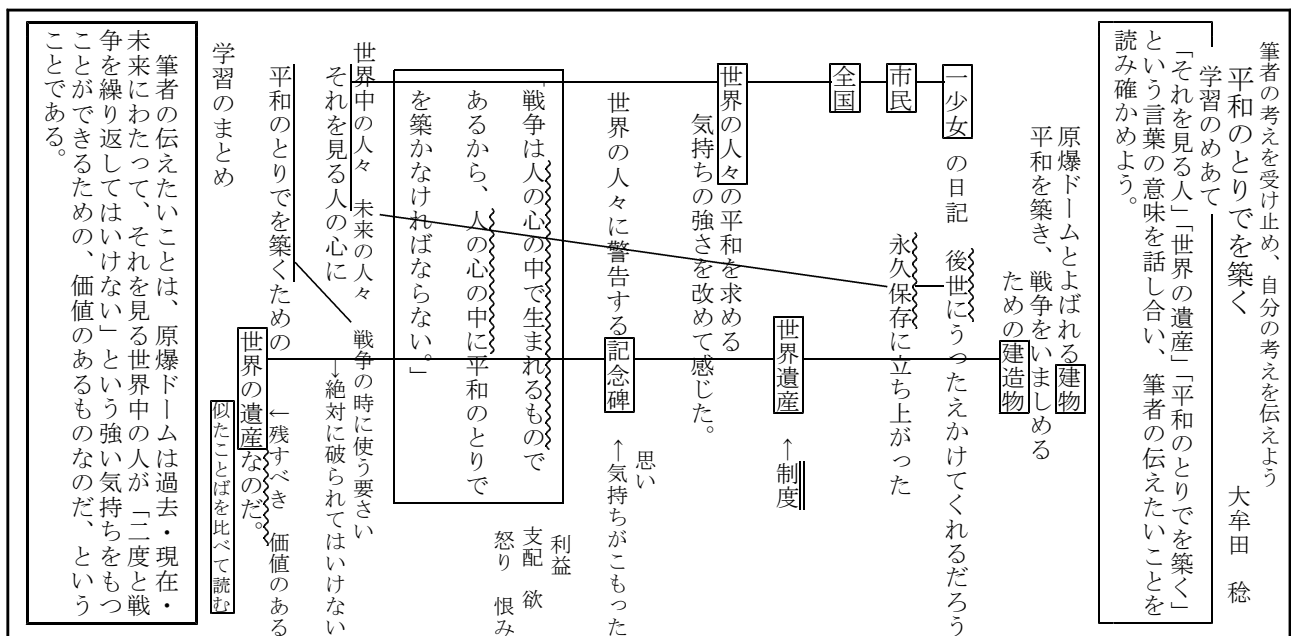
## 7. 本時指導の考え方

前時までに子どもたちは、『平和のとりでを築く』で、筆者は何を伝えたいのだろう。」という読みのめあてに対する予見を方向付け、その話し合いの中で①「それを見る人」とはだれのことなのか。②「世界の遺産」という言い方をしているのはなぜなのか。③「平和のとりでを築く」とはどういうことなのか。という3つの読み確かめるポイントを明らかにし、それについての自分の読みを書きまとめている。

本時は、書きまとめた自分の読みを話し合うことを通して、筆者の伝えたいことを読み確かめることをねらいとしている。

そこで、まず、本時のめあてを確認する。ここでは、学習計画の掲示物を活用し、本時の見通しをもつことができるようにする。次に、筆者の伝えたいことを読み確かめる。まず、①「それを見る人」とはだれのことを考える。ここでは、一少女の日記をきっかけに、原爆ドーム保存への動きが世界へと広がっていった経緯を述べた叙述をたどったり、「後世に」「永久保存」という叙述の意味を考えたりすることで、「それを見る人」の空間的・時間的な広がりをとらえさせる。次に②「世界の遺産」という言い方をしているのはなぜなのか話し合う。ここでは「建物」「建造物」「世界遺産」「記念碑」「世界の遺産」という原爆ドームに対する書き表し方の変化をたどったり、世界の遺産の「の」に着目して「世界遺産」と比較したりする。このことを通して、世界の人々や未来の人々に、平和の大切さを伝えるという原爆ドームの価値について読み取らせるようにする。それから、③「平和のとりでを築く」とはどういうことを話し合う。ここでは、まず筆者が題名としても使っていることから、筆者の伝えたいことを考えるキーワードであることを確認する。話し合いに際しては、国連ユネスコ憲章の「戦争は人の心の中で生まれる～」という言葉や、自分たちの知識や経験とつなげて解釈させたり、前半の話し合いで読み取ったこととつなげたりする。このことによって一人一人が「戦争を二度と繰り返してはいけない」という強い気持ちを持ち、力を合わせることで「平和のとりでを築く」ことであり、原爆ドームはそのための貴重な遺産であるということを読み取ることができるようにする。最後に本時の学習で読み確かめたことと読み方をまとめる。

## 8. 板書計画





## 9. 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点 (◎基礎・基本の重点)
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>(1) 前時学習の想起をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読み確かめるポイントを確認し、本時学習の見通しをもつこと           <ul style="list-style-type: none"> <li>・「それを見る人」とはだれのことか</li> <li>・「平和のとりでを築く」とはどういうことか</li> <li>・「世界の遺産」という言葉の意味</li> </ul> </li> </ul> <p>〈学習のめあて〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習計画の掲示物を利用して、本時に読み確かめるポイントを確認する。</li> </ul>
<p>「それを見る人」「世界の遺産」「平和のとりでを築く」という言葉の意味を話し合い、筆者の伝えたいことを読み確かめよう。</p>	
<p>2 筆者が伝えたいことを読み確かめる。</p> <p>(1) 「それを見る人」とはだれのことなのかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一少女の日記をきっかけに原爆ドーム保存の動きが世界に広がったことを読み取ること</li> <li>○ 「それを見る人」には自分や未来の人も含まれていることを読み取ること</li> </ul> <p>(2) 「世界の遺産」という言い方をしているのはなぜなのかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「建物」「建造物」「世界遺産」から「記念碑」「世界の遺産」へと呼称が変化することから、筆者が原爆ドームに対して大きな価値を感じていることを読み取ること</li> </ul> <p>(3) 「平和のとりでを築く」とはどういうことなのか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ユネスコ憲章の引用文と、自分の知識や経験をつないで、「平和のとりでを築く」とはどういうことかを具体的に考えること</li> </ul> <p>3 本時の学習を振り返り、まとめる。</p> <p>(1) 本時で読み確かめたことをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発言の仕方(順序)を確認し、筋道立てて自分の考えを述べさせる。</li> <li>○ 「一少女」「市民」「全国」「世界の人々」という叙述をたどり結び、「それを見る人」とはだれのことかを読み取ることができるようにする。</li> <li>○ 「後世に」「永久保存」という叙述の意味を考えさせることで、未来の人も含まれるということを読み取ることができるようにする。</li> <li>◎ 原爆ドームに対する筆者の書き表し方の変化をたどることで、単なる建物ではなく、世界の人々にとって大切なものであるという価値を読み取ることができるようにする。</li> <li>◎ 「の」に着目させることで、「世界の人々の」という意味をとらえさせる。</li> <li>◎ 「なのだ」という文末に着目させることで、筆者の強い思いを感じ取らせる。</li> <li>◎ 引用文中の「戦争は人の心の中で生まれるものである」という言葉と自分の知識や経験をつないで考えさせる。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会科の歴史の学習とつないで</li> <li>・ これまでの平和学習とつないで</li> <li>・ 最近の世界の情勢とつないで</li> </ul> </li> <li>○ 本時学習で読み確かめた三つのポイントを結び、本時のまとめにつなぐ。</li> </ul>
<p>筆者の伝えたいことは、原爆ドームは、過去・現在・未来にわたって、それを見る世界中の人が、「二度と戦争を繰り返してはいけない」という強い気持ちをもつことができるための、価値のあるものなのだ、ということである。</p>	
<p>(2) 読み方のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 言い表し方の変化をたどりその意味を考えて読む</li> <li>○ 自分の知識や経験とつないで読む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 板書に「読み方の種」のカードを位置付け、本時で使った読み方を次の学習に生かすことができるようにする。</li> </ul>